

令和7年度 海外インターンシップ報告書

実習期間	令和7年1月日 9月15日(月) ~9月19日(金)	5日間
実習企業	ACA KENBI	
実習地	ベトナム・ホーチミン	

1. 実習目的

Chapter1 purpose

自分はモノのかたちに興味がある。モノのかたちとは環境や気候から生まれる人々の暮らしに最適化された形である。日本と海外では気候から人々の生き方が多少なりと変わってくる。今回の初めての海外で、日本と海外のモノのかたちの違いをみていきたい。その違いからもう一度日本のモノのかたちを見つめなおすこともできるであろう。加えて、日本人が海外でどのように活躍しているのか、海外での生活、現地の人とのかかわり方を知り、今後の自分の行き方をとらえなおしたい。

2. 実習先概要

Chapter2 summary of company

長野県長野市に本社をおく総合建築設計事務所、エーシーエ設計。そのうちベトナムに所在する事務所である。同事務所では主に設備設計、意匠設計を日本本社の依頼案件、ベトナム国内の案件をともに行う。業務体制としては日本人駐在社員とベトナム現地社員で設備、意匠設計業務に従事している。

3. 実習日程

Chapter3 schedule

- 9/15 KENBI 各グループ朝礼参加
- 9/16 ローカル設備事案打ち合わせ参加
- 9/17 市内視察
- 9/18 ローカル設備事案打ち合わせ参加・市内視察
- 9/19 海外事業部定例会、ローカル設備事例打ち合わせ参加

4. 実習内容

Chapter4 laboratory

1. KENBI 各グループ朝礼参加

KENBI での意匠設計のグループ、設備設計のグループの朝礼に参加させていただいた。各個人の業務の進捗状況や会社全体としてのスケジュール確認を行っていた。加えて、CAD の操作について助言を求めたり、設計図書の表現が可能かどうかを確認したりするなど、活発な技術的交流が行われていた。

2. ローカル設備事案打ち合わせ参加

ベトナムにおける商業施設の設備設計の打ち合わせや現地住民主体の自動車営業所、養成所の設備設計の打ち合わせに参加した。

3. 市内視察

日系企業の商業施設、ランドマーク 81（ホーチミンで最も高い高層ビル）、ベトナム戦争証跡博物館、統一会堂などベトナムの過去から今までの歴史について学んだ。



5. 実習の成果（成長した事）

Chapter5 result

実際に成長することができたこととして

1. モノを見る目が鍛えることができた。
2. 海外での仕事において国籍を超えた人のかかわりを学べた。
の 2 つが挙げられる。

1. モノを見る目が鍛えることができた。

今回、日本とベトナムのものを見比べることでモノのカタチの在り方を深く考えることができるようにになったと感じる。出国前は違いを意識しようと考えていたが、実際見みると同じであることにとても興味を持った。特に日系企業の商業施設においては大枠は日本の商業施設とほぼ変わらないように感じた。環境面の施設やテナントの配置状況などは異なってくるがそれ以外の面では大きな差は感じられなかった。日本の商業施設の設計が海外でも使えることに驚きもありつつ、社会全体で統一化されてしまうのではないかという不安も感じた。日本のものを輸出するときにそのまま輸出すること以上に今後はもっと現地に寄り添うカタチはなんなのかそのような視点で考えていく必要が

あるように感じた。

2. 海外での仕事において国籍を超えた人のかかわりを学べた。

モノに注目しようと思ってこのインターンシップに参加したが、一番印象に残ったことがヒトである。もちろん、国籍ですべての性格を判断することはできず、様々な人がいる一方、国柄がある程度人柄にも通用しやすい。日本人は120点を目指して丁寧に仕事をしていくが、ベトナム人の方は80点を素早く出そうとする。そんな話を聞かせていただいた。どちらが正しいということではもちろんない。しかし日系企業としての責任とベトナムという取引先という関係から企業はどうあればいいのか、会社内はどうあればいいのかというのが模索され続けているように感じた。その中には細かなコミュニケーションやたびたびおこなわれる価値観の共有などがあった。まったく異なった環境の人と仕事をするときの一つの正解例を学べたと考える。

6. 今後の課題

Chapter6 problem

今回のインターンシップを経験して、建築の専門知識はもちろんのこと、全く違った環境の人とコミュニケーションをとっていく必要を感じた。なぜなら会社内では年齢はもちろんのこと、海外の住民の方もいるからこそこれまでの生き方があまり異なってくるからだ。これだけ境遇が違ってくるが向かうべき方向は一つである会社の業務においては様々な工夫を感じられた。状況報告を丁寧に行うことや自らの価値観などを逐次提示していくことなど些細な配慮が多く感じられた。しかしこれまで私は、学生生活の中では近しい年齢の中で近しい環境に身を置いた人とかかわりをもつことがどうしても多くなっていた。全く異なる生き方の人と仲間になるということは相応のコミュニケーションスキルが必要になってくるように感じる。したがって私は様々な人とかかわりを持ち、かかわり方を考えていくことが今後の自分に必要になってくるように感じた。

7. 海外インターンシップに行こうか迷っている学生に一言

Chapter7 Advice

海外であることやインターンシップという挑戦を前に少し不安に気持ちになってしまふことは当然のことです。しかし、その不安の裏には「新しい世界を知りたい」、「成長したい」という気持ちの裏返しにすぎません。ぜひ、自分の素直な気持ちに従って行動してみてください。今回私のようにたくさんの社会人がこの海外インターンシップを支援してくださっているという機会はそう多くはありません。一步踏み出した先には思いもしないような貴重な経験が待っていると思います。

8. 謝辞

Chapter8 Address of gratitude

自分は初めての海外、初めてのインターンシップという初めてだらけでした。その上、大学一年生ということもあり、専門性も高くななく不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、長野県や受け入れ先企業様からたくさんの支援で安心して一步を踏み出せました。また現地の方との交流も多く、日本人とベトナム人の生き方などただの海外旅行では感じられないようなベトナムという社会をたくさん経験することができました。忙しい中お時間を割いて貴重な経験を提供してくださりありがとうございます。この経験を元にして勉学に励み、一個人として建築にかかわっていければと思います。このたびは

お世話になりました。ありがとうございました。